

平成18年4月28日
海事局企画課

第2回新外航海運政策検討会での主な議論の概要

1. 日時

平成18年4月21日(金)15:00～17:00

2. 場所

国土交通省特別会議室(4階)

3. 議事

外航海運政策の課題について

4. 議事概要

事務局から「外航海運政策の課題について」説明が行われ、委員からは以下のような質問及び意見があった。

(1) 国際船舶の減少原因について

- 国際船舶の減少原因を当初の制度設計を踏まえて検討すべきである。
- 国際船舶の減少原因としての為替リスクについて、円安になると為替差益により邦船社の収支が改善されるのではないか。
- 為替リスクは、本業(海運業)とは関係なく、なるべく避けるべきである。

(2) 便宜置籍船について

- 船舶と実質的所有者との真正な関係(**genuine link**)について、例えば、邦船社が運航するパナマに登録された船について、日本が旗国となる、いわゆる登録国と旗国との分離制度をとれば、より真正な関係が確保できるのではないか。

(3) 海技資格者について

- これまで船員供給国であった中国においても、船員が不足してきており、将来において、船員不足がより深刻な問題になりうる。
- 我が国の船員政策は、日本人船員の育成のみならず、外国人船員の育成・確保の観点から検討が必要である。

(4) 公正な競争環境の整備について

- 最近、M&Aにより欧州船社の寡占化が進んでおり、我が国としても、対応が必要ではないか。
- トン数標準税制は、強者をますます強くし、淘汰を加速する制度である。

(5) 安全・セキュリティ対策について

- 船舶管理のアウト・ソーシングを行うとしても、自社と同じレベルの安全・セキュリティ対策を講じるべきである。

以上